

2023 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	結 creation
活動テーマ	地域の宝は地域で守る！地域資料レスキューからのコミュニティづくり



本事業は、水害等により水濡れなどの被害を受けた紙資料(手紙や書籍など)の応急処置法を学び、今後起こりうる自然災害や水損事故などに備え、個人の記憶や地域の共有財産である資料救出の初期活動を迅速に行うことができる人材育成を目指して企画、実施した。

近年、ゲリラ豪雨や線状降水帯の発生頻度が増加し、それに伴う水害発生の可能性が高くなってきている。また近畿地方は、南海トラフ地震への事前対策も求められる中、いかに日常より発災時への備えをするかが重要である。そこで、地域の歴史の保管している博物館や図書館をはじめ、個人宅にとっても「水害」に対する備えは必要不可欠であると考え、滋賀では河川氾濫での被害が想定されるため、熊本県人吉市をはじめ、河川氾濫での水害被害に関わった経験のある九州保健福祉大学の山内利秋氏と、隣県である三重県総合博物館で保存科学を専門とされている甲斐由香里氏、河川氾濫被害の自然史資料レスキューを指揮された大阪市立自然史博物館の佐久間大輔氏を講師に。和歌山では、海岸線に隣接しており津波被害が想定されるため、東日本大震災の際に陸前高田市で資料レスキューに関わった経験のある遠野市立博物館の前川ゆかり氏と、隣県である三重県総合博物館で保存科学を専門とされている甲斐由香里氏を講師に実施会場に合わせたコーディネートをした。

講習会実施を通して、水損資料レスキューについての知識と技術の両面から対処法を学ぶ機会を作ることが出来たと考えている。実際に作業も経験するため、そこから浮かんできた課題や疑問なども共有し議論することもできた。講習会の様子は、座学部分のみではあるが滋賀県平和祈念館の公式動画サイトで配信し、継続した情報発信をふまえて事前防災の定着について今後も取り組んでいきたい。